

Eiche

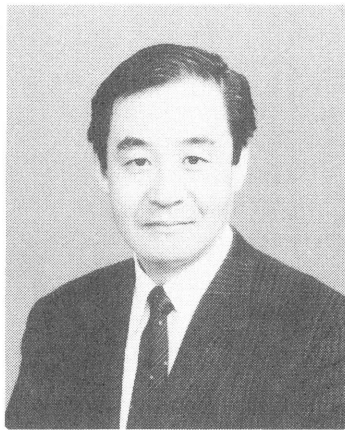
Die Eiche ティ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町2-518-1 第二ワールド ナーシング ホーム内
TEL 047-461-9111 FAX 047-461-7010

臨時総会・講演会とビール祭り

新会長に平尾浩三氏を選出



平尾浩三新会長

夏の暑さが残る9月8日(土)、JR 総武線船橋駅南口徒歩7分のステーキハウス「ヒロキ」で恒例の講演会・ビール祭りが行われたが、その前に、臨時総会が開催された。議題は、前会長加藤吉昭氏が亡くなられて空席となっていた会長を選任する件。既に7月13日の臨時理事会で、候補は平尾浩三顧問に絞られていたが、この臨時総会では宮藤宏常任理事の司会の下、国枝誠昭副会長が平尾氏を会長に推薦する理由を説明。挙手による投票を実施した所、満場一致で承認された。更に、故加藤会長の和子夫人を理事に選出し、約15分程で臨時総会を終了。

続いて3時より、(株)入舟屋和田昌行社長により「ドイツの河の源流を訪ねて」と題しての講演が行われた(詳細次号)。4時から、木村理事により用意された料理を前にビール祭り。例年通り土生氏のアコーディオン伴奏により丸山緑さんの独唱のあと全員でドイツの歌を合唱。途中から仕事の関係で遅れておられた平尾新会長が到着、就任の挨拶をされた。最後に参会者の自己紹介をして、6時30分散会。なお尚平尾新会長の略歴は左記の通り。

- 1934年 神戸市生まれ
 - 1957年 東京大学教養学部教養学科(ドイツ科)卒
 - 1969年 東京大学助教授、85年教授に昇任
 - 1989年 慶應義塾大学教授
 - 1995年 東京大学名誉教授、現在に至る
 - 1995年 慶應義塾女子高等学校校長を兼務
 - 2000年 日本橋学館大学教授、現在に至る
- 日本独文学会、ドイツ語学文学振興会の理事長を歴任。

会長に就任して 平尾浩三

ためらえる我を迎えて協会の顧問に据えし君の温顔
(加藤先生を偲んで)

本年四月に亡くなられた加藤吉昭先生の跡を継いで千葉県日独協会の会長をつとめるようにとのご依頼を、会員の皆様から頂戴致しました。そのご学識・お人柄、あらゆる点において傑出した会長であられた故・加藤先生を思うとき、私はあまりにも未熟な自分を痛感するのみで、同先生の後任をつとめる能力が自分にあるとは思えず、お勧めに対してどう反応すべきか、大いに迷いました。しかし逃げるのは、諸般の事情からして、事を複雑にするばかりで、男子の美学にいささか反するようでもあり、結局、お引き受けする決心を致した次第です。力不足は重々承知しながら、任に就いたからには一生懸命、励む所存でございますので、ふつつかなる私を、皆様、どうかよろしくご指導・ご支援くださいますよう、お願い申し上げます。

千葉県日独協会は平成八年に生まれましたが、本協会設立の直接の動機となったのは、船橋市習志野霊園にあるドイツ軍人のお墓のお世話をする件でありました。すなわち第一次大戦の際、中国のチンタオで数多くのドイツ軍人が捕虜となり、日本へ移送され、習志野にも少なからぬ方が収容されたのですが、中には、二度と祖国の土を踏むことなく、ここ習志野に没した方もおられるのです。その方がたのお墓のお手入れをし、墓参を行なう団体を作ろうというのが、協会設立のきっかけでありました(それまでは、石崎満当協合理事が父上の申之氏と親子二代にわたりお墓を守って来られました)。その志には今後も変わるところなく、この地に眠るドイツ軍人の望郷の心を偲んで御霊をお慰め致したく、そしてこの思いを、現在日本に滞在しておられるドイツの方がたとちつつ、いろいろな講演会や学習会、パーティーや遠足等を共に盛り上げて、日独の交流を深めて参りたいと存じます。何はともあれ、皆が寛ぎ、心打ち明けて交われる集いと致して参りましょう。殺伐な事のみ次々と起こる現代に生きて、本協会における触れ合いが、ささやかなりとも、私たちのオアシスとなることを願ってやみません。さあ、皆様、力を合わせて歩んでまいりますよう。

～今後の催物案内～

◇ドイツ軍人病没者追悼慰霊祭

日時：11月25日(日) 11:00AM～

場所：船橋市営習志野霊園内

JR 総武線津田沼駅北口よりバスで15分

「自衛隊前」下車。正面に向かって左手50mの角を右折、直進徒歩7分右側。

尚、終了後近くのレストランで直会。

(費用約1500円)

※当協会主催の行事は以上で終了

その後「習志野ドイツ兵を偲ぶ会」主催のミサが下記の要領で開催されますので、希望者はご参加ください。

記

日時：11月25日(日) 15:00～17:00

場所：カトリック習志野教会 (Tel:043-216-0035)

京成電鉄 実初駅下車徒歩700m

◇クリスマスの集い【(財)日独協会主催】

日時：12月17日(月) 18:00開場、18:30開演

場所：パレスホテル 2階「チェリールーム」

東京駅丸の内側北口より徒歩7分、

または地下鉄東西線大手町駅下車3分

会費：10,000円(同伴家族 9,000円)

申込：郵便振替口座 No.00150-8-55593

(財)日独協会宛会費振込み

千葉県日独協会会員と記入してください。

恒例の福引を行いますので、景品としてお手持ちの品1点をご提供ください。



筑波山神社にて

滞日ドイツ人学生との

親善バスハイク「つくば文化を訪ねて」

秋恒例の滞日ドイツ人留学生・研修生と合同のバスハイキングは10月13日(土)に実施された。当日は、天気予報もはずれて朝から快晴、絶好のハイキング日和となった。早朝7時半前から東京駅八重洲側、鍛冶橋駐車場に集合した一行119名(内ドイツ人学生51名、日独協会会員および関東学生ドイツ研究会連盟68名、うち当協会からは5名)は、貸切バス3台で8時20分に出発、常磐高速を經由して友部へ。最初の訪問先は「郷の誉」の蔵元、(株)須藤本家。歴史ある表門が特別に開き、酒造りの杜氏・蔵人衆に出迎えられる第55代蔵主須藤悦康氏によりこの蔵元が、創業平安時代後期の永治元年(1141年)以来の伝統を誇っている事、良い酒は良い米、良い土、良い水から作られるが、このうち水が最も大切でその為、樹齢800年のケヤキを大事に守り、100年以上経って浸み出てきた井戸水のみを使用している事などが説明された。

又現在は、北米、英、仏、シンガポール、香港に輸出されていて、近々ドイツにも輸出したい由。説明終了後は、蔵の前のテーブルに並べられた仕込水(12世紀以来の外井戸・内井戸の水)と3種の純米吟醸生酒、霞山(かさん)、山桜桃(ゆすら)、黒吟(くろぎん)を試飲。それぞれが独特の風味で、特に山桜桃は、口に含んだ時は水に近い感じだが、後から何ともいえない味がする。酒に詳しい人によれば「上撰水のごとし」というのだそうである。また、仕込水は、800年間ずっと同じ位置にある井戸から汲み上げた水との事で、ミネラルウォーターとは異なっただけで、ワインとは、一味も二味も違った日本酒の伝統と味に触れて、皆新鮮な印象を受けたようであった。須藤本家から5分程歩いた所に駐車していたバスに戻る途中には、色とりどりに咲き乱れるコスモスが美しかった。

次いで千代田町の四万騎農園へ。「茨城の栗」は栽培面積、収穫量とも日本一だが、ここは明治初期、旧志筑藩郡奉行家の兵藤祐三郎開園の広大な栗農園(25ヘクタール)で、5センチ以上もある高品質の大粒な栗を栽培している。着後園内広場で企画実行委員長河村繁一理事司会で日独交歓会開催、つくば学園都市在住の現地参加のDAAD学生5名や茨城県日独文化協会(水戸)会員12名も含め140名を前に地元を代表して井上壽博会長、四万騎農園の兵藤保社長、DAAD大庭治夫理事が歓迎の挨拶。兵藤社長は、40年前購入したライカに魅せられ今も愛用、他にも電動ノコギリもドイツ製、車もベンツとドイツファンで皆を喜ばせた。記念写真撮影後、中庭に設けられた茶席で主客、次客ほか8名が前方に座り3グループに分かれて野点席を楽しんだ。これは、大日本茶道学会の飯田仙猷教授の御好意によるもので、前日切った太い青竹で周りを囲み、茶釜の近くにはススキやリンドウ、水引、菊等秋の花、それに割れたばかりの大栗が並べられるなど野趣に富んだもので、着物姿の門下生10名のお手前にドイツ人学生達も我慢して正座のまま茶菓を楽しんだ。尚、井上会長はこの日の野点のために特別に茶器3ヶを焼いて寄付して下さった。昼食は石蔵の中で(大谷石造りの多目的ホール)、和風弁当とアサヒ本生。

それに四万騎農園特製のマロンジャムとビスケットが用意され、皆大満足。3時過ぎ地元の主人側に見送られて最後の訪問先筑波山神社へ。急な石段を上り、全員昇殿し大太鼓が打ち鳴らされたあと、神主さんの祈祷を受ける。織田常務理事とユリア・ホフマン嬢が玉串を捧げ、一同二礼二拍手一礼の参拝をした後皆でお神酒をいただく。神社から下りる途中の展望台では、丁度夕日が沈む所で、思い出に残る記念写真を取る事が出来た。